

総合高等職業訓練校

機械科カリキュラムの実態

担当者 森 和 夫

序 文

本論文は職業訓練大学校の指導科助手、森和夫氏の研究報告である。公共職業訓練、特に総高訓の訓練カリキュラムに関するスコープの実態は本報告によって明らかになったと云ってよい。本報告が、訓練校指導員の方々の訓練計画樹立に際して、有力な参考になるように祈りたいと思う。

蛇足めいた所感を付け加えるならば、機械科におけるカリキュラムの実態が、訓練法施行規則の別表第三や教編要領に余りに忠実なことである。このことは電気機器科の諸事情などくらべると著しく対照的と云わざるを得ない。このことは機械科の「訓練目標」が非常に狭く設定されているからであるが、このようなシャープな目標の持つ意義について、今一度考えてみる必要はないであろうか。検定を除いて公的資格が全く期待できないだけに、機械科の「目標」の検討の時期に来ているように思う。

昭和50年3月

職業訓練大学校

調査研究部長

宗 像 元 介